

うまい!

# 岩船米づくり情報 No. 5

平成 30 年 6 月  
岩船農業振興協議会  
村上農業普及指導センター

**本年の出穂期は、早生・コシヒカリとも平年並の予想(6/20 現在)  
中干し後は間断かん水、早生の穂肥は1回目重視で遅れずに!**

## － 重点事項 －

- ◎ コシヒカリで中干しが遅れているところは直ちに実施。
- ◎ 中干し終了後は、根の健全化のため、間断かん水から徐々に飽水管理に移行する。
- ◎ 早生の穂肥は遅れずに、適期・適量穂肥の実施により粒数確保を図る。
- ◎ コシヒカリは、出穂20～40日前頃のケイ酸追肥により、体質強化。

## 1 6月20日現在の生育状況【普及センター調査ほ】

【コシヒカリ】※平均は6地点の水稲作付面積に応じた加重平均

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数(本/m <sup>2</sup> 、%)			葉数(葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
山北/大毎	5/12	35	95	106	313	83	154	7.4	-0.6	+0.2	39.9	+1.9	+4.5
朝日/川端	5/15	33	80	106	358	97	129	8.2	-0.6	+0.2	40.7	+1.7	+1.8
村上/山辺里	5/16	33	87	118	242	58	98	8.0	-0.5	+0.6	37.7	+0.7	+3.1
神林/牛屋	5/10	36	103	116	471	135	159	8.6	+0.4	+0.6	37.1	+0.6	+2.1
荒川/名割	5/12	27	82	101	201	80	102	7.5	-0.5	0.0	33.4	-4.6	+2.4
関川/下関	5/12	31	94	110	293	105	123	7.9	-0.2	+0.4	36.9	-2.1	+1.8
平均	5/12	33	90	110	335	77	129	8.1	-0.3	+0.3	37.6	-0.4	+2.2

【こしいぶき】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数(本/m <sup>2</sup> 、%)			葉数(葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
神林/牛屋	5/10	31	100	119	510	159	154	8.6	+0.1	+1.0	41.0	+1.0	+2.8
朝日/十川	5/ 6	36	116	124	491	153	116	8.6	+0.1	-0.6	43.5	+4.5	0.0

## 2 6月20日現在の出穂期予想

早生・コシヒカリとも平年並の見込み。

熟期 (田植時期)	品種名	出穂期 (予想)	穂肥時期(出穂前日数)				合計施肥量 (チツ kg/10a)
			1回目		2回目		
早生 (5/5頃)	新潟次郎	7月21日	6/26	(25)	7/7	(14)	6
	五百万石	7月26日	7/6	(20)	7/14	(12)	1～2
	こしいぶき	7月30日	7/7	(23)	7/16	(14)	2～3
中生 (5/10頃)	こがねもち	8月3日	7/16～7/19	(18～15)	7/24	(10)	1～3
	コシヒカリ	8月9日	7/22～7/25	(18～15)	7/31	(10)	1～3

※出穂期は、気象条件で大きく変動するので、今後の情報に注意するとともに、穂肥の施用に当たっては、各ほ場の幼穂を必ず確認して施用しましょう。

※新潟次郎は、6月中に1回目の穂肥を遅れずに施用しましょう。

※施肥量は一般栽培のめやすであり、生育状況に応じて時期や量を調整しましょう。

### 3 中干し終了後の水管理 ～間断かん水から飽水管理へ～

- 中干しは遅くとも出穂1か月前までに終了しましょう。終了時期が遅れると根量が少なくなり、出穂後の葉色低下が大きく品質低下を招きます。
  - 中干し終了後は浅水の間断かん水を実施し、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努めましょう。
  - 長期間の湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上りを生じさせるので、行わないでください。
  - 幼穂形成期以降は、飽水管理としましょう。飽水管理とは、「自然減水で、田面の水が溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったら灌水する方法」です。
- ※低温が予想される場合は、深水管理を行って幼穂を保護しましょう。



### 4 早生品種の穂肥施用のポイント ～遅れず適期に施用～

- 早生品種の1回目の穂肥施用は、収量確保のため適期を逃さず確実に実施しましょう。
- 生育量が極端に大きく倒伏が懸念される場合などは、遅め控えめの対応としましょう。

#### 穂肥の効果

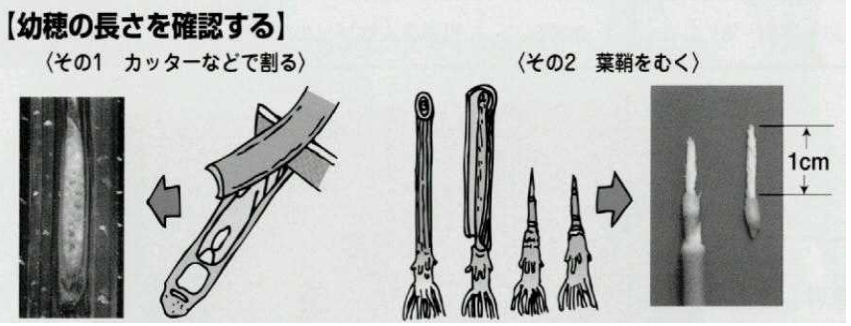
出穂前日数	10日以内	10～15日	20～30日	30～35日
一穂粒数増加	×	◎	◎	×
登熟の良好化	◎	◎	◎	×

#### 幼穂長の確認方法

#### 幼穂長と出穂前日数の目安

出穂前日数 (日)	幼穂長 (cm)
24	0.1
20	0.2～0.4
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

- ※ ほ場内の平均的な株から最も長い茎を抜き取り測定する。
- ※ 数株から採取し総合的に判断する。



#### (参考) 出穂前日数とイネの外観

24日前	次葉(止葉の下の葉)抽出開始
18日前	止葉抽出開始

### 5 コシヒカリのケイ酸追肥 ～穂肥の前の体質強化～

- 水稻は幼穂形成期以降ケイ酸の吸収量が急激に増加します。
- 暑い夏を乗り切る稲体づくりには、出穂前のケイ酸追肥が有効です。
- 出穂20～40日前に、ケイ酸肥料を追肥し、稲の体質強化と根の健全化を図りましょう。  
〔例〕けい酸加里プレミアム34又はマルチサポート2号：20～40kg/10a。

#### ～水稻におけるケイ酸施用の効果～

- |             |   |               |
|-------------|---|---------------|
| ① 根の活力向上    | ➡ | ① 耐冷性・耐暑性の向上  |
| ② 茎質の強化     |   | ② 耐倒伏性・耐病性の向上 |
| ③ 粒の増加・肥大   |   | ③ 収量の向上       |
| ④ 炭水化物の転流促進 |   | ④ 登熟・品質の向上 など |

